

## 第1回「関東さつま会」設立総会

平成17年3月、郷里で三町合併により新生「さつま町」が発足したことを受け、関東地区における同郷親睦会「東京宮之城会・関東鶴田会・関東求名会・関東永野会・関東中津川会」の五団体は地域性に拘らず、新しい形での合同の親睦会を立ち上げ、郷里との連携を図り、さつま町出身者の融和と親睦を目的に、各会の幹事皆で協議を進め、平成18年10月15日（日）、東京神宮外苑にある日本青年館において、約200人が参加し、盛大に第一回関東さつま会設立総会を開催いたしました。

総会では、山下正寛中津川会事務局長の司会により日笠山広文求名会長の開会挨拶のあと、小島満郎東京宮之城会長から発起人代表として会の設立までの経緯や主旨、目的及び組織、今後の活動などについての説明がされ、参加者に協力をお願いしました。

来賓として出席した井上章三さつま町長より、この会の立ち上げにかかる労いの言葉と「これからこの関東さつま会が郷里とのパイプ役となり、益々発展する事を希望します」と力強いお祝いの言葉が述べられました。また、今年7月22日の集中豪雨による大水害の被害内容、復興状況について詳しく説明があり、改めて被害の大きさ、復興の困難さが実感されました。

次に関東鹿児島県人会連合会の西尾宣博事務局長より、県人会との相互協力・情報交換等についての要請と共に、暖かい励ましの言葉が述べられました。

最後にこの会の規約案、役員候補者など全ての議案が全会一致で原案通り承認され第一回「関東さつま会」の総会が終了しました。

その後、懇親会も行われ、舞踏家の鎌田御代子さん（宮之城会）によるお祝いの舞「黒田節」や全員参加で郷土の輪踊りの披露、また懐かしい郷里の物産店も開かれ、和やかな雰囲気の中で懇親が深められました。

また、会場で今般の洪水被害に対し、参加者の善意による義援金の募金が行われ小島会長から井上町長に手渡されました。

今般の、第一回「関東さつま会」の開催にあたり、さつま町役場をはじめ、多くの方に多大なるご協力、ご支援を頂き誠に有り難うございます。

厚く、御礼申し上げます。

今後共、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

「関東さつま会」一同

## がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑦

◎ さつま町平川

杉元吉弘 さん



杉元さんは、鹿児島市内でサラリーマンをされた後、22歳の時、家業である畜産業を継ごうと決心し就農されました。

現在は、平川にある農事組合法人 杉元農場で生産牛36頭、肥育牛10頭を飼育されています。

「生き物を扱う仕事なので決まった休暇が取れず大変ですが、大切に育てた牛が市場で高く評価されたときはうれしく思います」と話す杉元さん。牛の餌の食べ方や寝ている様子など毎日の観察を怠らないよう努めているそうです。

また、牛の飼育と併せて作る完全完熟堆肥は、臭いもなく品質も良いと評判が良く、遠くは大口市や菱刈町のたばこ耕作農家からも受注が多いとのこと。完全完熟堆肥は、発酵温度と空気の通りを考えて作っているそうです。

杉元さんは、これまで経営主である父と共に経営を行っていましたが、今年の12月に農事組合法人 杉元農場の代表理事として経営を引き継がれました。「今後は、生産牛の増頭と受胎率の向上、肥育牛の増頭を行い、所得の向上を図っていききたい」と話されました。